



田空だより

なすの大地 第23号

2014年3月号（通巻第23号）
那須野が原西部田園空間博物館運営協議会 発行

○これって何の広報誌なの？

当誌は「那須野が原西部田園空間博物館運営協議会」の広報誌です。田園空間博物館とは、地域の自然や史跡、施設等を田園空間に広がる展示物（サテライト）に見立てた屋根のない博物館です。那須野が原西部地区では烏森神社、乃木神社、三島神社、太夫塚神社、槻沢遺跡、常盤が丘（ときわがおか）、接骨木（にわたこ）の一里塚などをサテライトとしています。

☆25年度の主な協議会活動内容

- 5 . 28 総会開催
- 5月～6月 サテライト清掃活動
- 8月～9月 サテライト清掃活動
- 8 . 20 会報「なすの大地」第22号発行
- 9 . 29 駅からハイキング開催（関連団体と共催）
- 10 . 5 第10回那須野が原ウォーク開催（関連団体と共催）
- 10.19～20 西那須野産業文化祭にて、小学生サテライト絵画展開催
- 10.22～11.10 那須野が原博物館フェスタにて、サテライト写真展開催
- 11 . 23 サテライト見学会開催
- 12. 6～13 県庁展示ギャラリーにて、小学生サテライト絵画展開催
- 1.30～2.9 那須野が原公園展示ホールにて、小学生サテライト絵画展開催
- 3 . 20 会報「なすの大地」第23号発行



那須野が原ウォークの様子



絵画展（那須野が原公園）の様子

◎サテライト写真の募集について

当田園空間博物館のサテライトを撮影した写真を募集いたします。ご応募いただいた作品は、8月に那須野が原公園の展示ホールにて開催を予定している写真展の会場などで展示させていただきますので、ぜひご応募ください。なお、募集規格等については下記のとおりです。

また、コンテストではありませんので表彰等はありません。規格との照合はいたしますが、作品の選考もいたしません。なお、ご不明な点につきましては協議会までお問い合わせ下さい。

- ・作品の規格 カラー作品。画像が鮮明で、A3サイズで光沢紙にプリント（インクジェット可）したもの。デジタルカメラによる撮影の場合は、1000万画素以上のもの。特定の人物が映っている場合、事前に当人の許可を得た上でご応募ください。
- ・展示方法 パネル（黒マット有）にて展示いたします。（内径 39.7mm×27.6mm）
- ・応募期限 7月25日（金）まで ただし、応募作品過多の場合は、期限前に締め切らせていただきますのでご了承ください。

参 考

「那須野が原公園の紅葉」

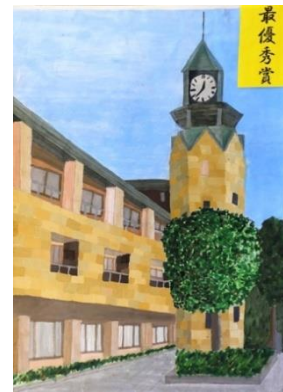


◎第4回小学生サテライト絵画展について

那須野が原西部田園空間博物館の対象地域になっている西那須野地区の小学校と横林小学校の高学年の児童を対象にサテライト絵画の募集を行い、全校合計172点（南19点、大山21点、東65点、三島6点、槻沢43点、西3点、横林15点）の応募作品から審査の結果、優秀作品18点を決定しました。10月19日～20日は西那須野産業文化祭会場、12月6日～13日は栃木県庁会場、1月30日～2月9日は那須野が原公園会場にて同絵画展を開催しました。また、10月から11月にかけて各コミュニティ祭り会場においても地域の小学校の絵画展が開催されました。なお、優秀作品は以下のとおりです。

最優秀賞

東小学校 大島 有紗さん 「時計塔」(右写真)



優秀賞 全17点 槻沢小学校



「温泉神社」
臼井 未結さん



「津室川遊水地」
松本 優栄さん



「慶乗院」
後藤 木葉さん



「遅沢の板倉」
手塚 夏菜さん

大山小学校



「モミジ並木参道」
齋藤 明日香さん



「乃木神社」
藤巻 雛菜さん



「大山墓所」
山口 拓駿さん



「大山墓所」
渡辺 夢叶さん

南小学校



「諏訪神社」
伊東 万里奈さん



「なんじゃもんじゃ」
梅原 咲太さん



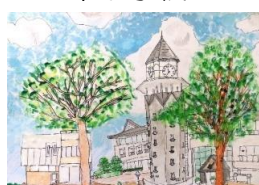
「なんじゃもんじゃ」
竹村 真咲さん

横林小学校



「接骨木の八坂神社」
関谷 秀真さん

東小学校

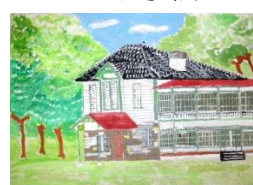


「時計塔」
小山 琴美さん



「時計塔」
菊地 笙太さん

西小学校



「萬歳閣 松方別邸」
大森 なつみさん



「那須疏水水車」
宮 凜々花さん

三島小学校



「お参り神社」
梅村 光理さん

多くのご応募をいただき、ありがとうございました。次年度も、第5回の絵画展の開催を予定しておりますのでぜひご応募ください。

◎サテライトの説明看板を手作り（中央地区コミュニティ）

私たちの中央地区には13のサテライトがありますが、現地にそれらを説明する看板等はほとんど設置されていませんでしたので、地域マップ（※）を片手にそれらを巡るならともかく、いきなり案内ポールを見つけて訪ねてもそれらの由来などを知ることはできませんでした。

そんなことからコミュニティとしても、現地における説明看板設置の必要性を以前から感じてはいましたが、それを実現するにしても果たしてどこに要請し、だれが主体となり、費用負担はどこがするかなど、課題は少なくありませんでした。そこで、ただ手をこまねいているだけでは物事は進みませんから「まずは実行！」と、田園空間博物館事業をサポートする私たち「まちづくり部会」は限られた予算の中で手書きの看板を製作することにしました。

もちろん事前にサテライトやその地区の責任者の方々に設置の許可を頂いてから、計画を進めることとなりますが、まずは市販のベニヤ板にペンキで下塗りし、乾いてから手書きで説明分を書く。そこに後日化粧屋根と二本の杭を付け現地に穴を掘って立てる。こうした作業を経て、すでに3ヶ所のサテライト（太夫塚の十九夜地蔵尊堂・一南の南郷稻荷神社・永田の愛宕神社）に看板の設置を完了しました。

これからも可能な限り順次設置をしていくつもりですが、みなさんが立ち寄りされた際は、目に留めて、少しでも参考にいただければと思います。（中央地区コミュニティ 渡辺 伸明）

※ 地区ごとにサテライトの場所を1枚の地図にまとめたもの。当博物館エリア内の各公民館で配布しています。



十九夜地蔵尊堂



南郷稻荷神社



愛宕神社



◎平成25年度サテライト見学会

平成25年度のサテライト見学会が昨年11月23日に開催されました。本年度は市広報等で一般の方からも参加者を募り、多くの方にご参加をいただきました。当日は天候に恵まれて、抜けるような青空と紅葉を楽しむことができました。

行程としては、板室地区の深山ダム・沼原発電所を見学し、その後は松方別邸に立ち寄りしました。別邸の周辺は紅葉する樹木が多く、毎年秋には見事な景観を作り出しますが、残念なことに見学当日には見頃を過ぎてしまっていました。別邸の後は赤田調整池に移動し、畔から池を眺望しました。池の向こうにはサンサタワーや頂に雪を抱いた那須連山が見渡せ、手前には紅葉した樹林が広がり、青、白、紅、3色のコントラストにさらに水面の深い青が加わって、見事な色彩を生み出していました。

その後は昼食休憩を兼ね、那須野が原公園のサンサタワーに上がりました。タワーの展望台からは、那須連山の麓まで続く那須野が原の紅葉が見渡せ、その雄大さを実感することができました。

昼食後は蛇尾川サイフォン出口を見学し、続いて槻沢の津室川湧水地を訪れました。昏々と湧き出す水は透明度が高く、水底の小石まではっきりと見ることができました。その後は紅や黄に色付く大山参道や大山別邸を見学し、西那須野庁舎の時計塔に登り、夕焼けに染まる街並を展望しました。

なお、次年度に関しましては、上記の千本松周辺の紅葉をより多くの方にご覧いただきたく、**同時期に那須野が原ウォークの開催を予定しています。**それに伴い、見学会の開催時期は変更になる予定です。



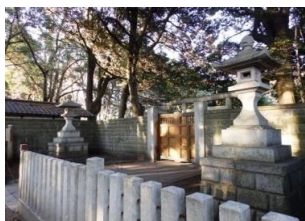
◎大山墓所の修復について

明治の元勳、大山巖元帥が先妻の沢子夫人、後妻の捨松夫人と仲良く並び永眠されているお墓が西那須野駅近くの鬱蒼とした杉木立の奥にある**大山墓所**です。

大山巖元帥はこよなく那須を愛し、生前からの希望により、この地に埋葬されたそうです。またこの地にとっても開拓の1ページを開いた大恩人であり、墓所はもみじ参道とともに当田園空間博物館のサテライトの一つになっています。

4年前の東日本大震災で、大山元帥のご子孫の私有地である墓所は石塀をはじめ、参道部分も含めた灯籠群の崩壊などの被害を受けました。被害が甚大で個人での修復は難しく、参道と墓所の入口の石灯籠4基は栃北石材組合のボランティアにより修復されましたが、現在も石塀や墓所内の灯籠は被災時のままの状態であり、1日でも早い修復が望まれます。

そのような中、地元から修復の話が持ち上がり、「**大山巖墓所保存会**」（発起人、会長 小出 孝二氏）が1月30日に発足しました。大山墓所の修復を目的に、浄財を募るための募金活動等を行っています。



修復された墓所入口の灯籠



修復された参道入口の灯籠

◎狩野地区のどんどん焼きが復活

狩野地区コミュニティの「**どんどん焼き**」は、地域の伝統行事として当博物館のサテライトに指定されており、東日本大震災が発生するまでは、地区の槻沢小学校のグラウンドで盛大に実施されていました。

当初は育成会の正月行事として実施していましたが、現在はコミュニティが主体となり、地域の伝統文化の継承、地域住民や親子たちの親睦交流を深める場として36年もの歴史を誇っています。

大震災発生後は福島第一原発の放射能漏れ等の影響から自粛要請がされていましたが、要請が解除されたことに伴い、1月11日（土）西那須野清掃センター跡地に会場を移し、3年ぶりに盛大に実施されました。

会場には孟宗竹でやぐらを組み周囲を藁で囲んだ高さ1.5mの「**トリ小屋**」が建てられ、多くの親子連れや地域の住民が集まりました。正月の飾り物やしめ縄などが燃やされ、真っ赤な炎が冷たい闇の中を照らす光景は大変見事でした。参加者はこの炎にあたり、家内安全・無病息災・五穀豊穡などを願いました。

参加者には豚汁や甘酒、団子等が無料で振舞われ、厄年のお祓いも行われました。厄祓いを受けた人からガラムキでトラックの荷台から菓子やみかん等がまかれると、多くの方が競い合って拾い楽しみました。

同じような行事は太夫塚や横林、接骨木地区などでも開催されましたが、地域住民や親子の絆が薄れつつある今の時代にこそ、交流の機会であるこのような行事が果たす役割は極めて大きいと思われる。



那須野が原西部田園空間博物館運営協議会

◇問い合わせ先◇

TEL 0287-37-5108（那須塩原市西那須野支所産業観光建設課内）

◇HPアドレス◇

<http://www2.city.nasushiobara.lg.jp/denkoo/>

※当誌は那須塩原市の公民館で配布しておりますので、入手を希望される方は各公民館までお問い合わせ下さい。